



1 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

最近、子どもたちを取り巻く世界がどんどん同質化しています。年齢の異なる子どもたちが入り乱れて遊ぶ、といったことが少なくなりま

もつと少なくなっているのが、よその大人と接触する機会です。隣近所の交流が少ないので顔見知りの大人もあまりいないうえに、怪しい人との接触を心配する親から「知らない人から声をかけられても、話をしてはいけません」といわれて育っています。子どもたちが接する大人は、両親、祖父母、学校や塾、友だちのお母さん、習い事の先生

生くらい。世間の多彩さを知る機会が減っています。① 狭められた環境のなかで、安心できる人とだけ接して育つことは、子どもにとっていいことでしょうか。

無菌状態で純粹培養されていると、ちよつとした菌にも弱くなる。② テイコウ力がないので、すぐに参つてしまいます。これは人間関係においてそのままいえることです。

対人対応力は、いろいろな人とたくさん接触してコミュニケーション15 ンすることで練られていきます。その中で人間洞察力がつき、「あれ？ この人ちよつとおかしいな」といった違和感を察知するセンサーも敏感に働くようになるのです。

ところが、いろいろな人と接していない人は、そういうセンサーを日ごろ使っていないので、対人感度が鈍い。その結果、だまされたり20 して痛い目に遭いやすいのです。

一生無菌状態のまま生きていけるわけではありませんから、外の世

てほしい。それが社会への適応力であり、人間関係にタフになるとい うことです。

(齋藤孝『遊ぶ力は生きる力』)

問一 線①・②のかたかなを漢字で書け。

① _____ ② _____

問二 線①「狭められた環境のなかで、安心できる人とだけ接して育つこと」とあるが、子どもがこのように育つことに対する筆者の考えとして最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア 世間の多彩さを知る機会が減り、対人感度が鈍くなつてしま うので、望ましいこととはいえない。
イ 嘆くべき状況ではあるが、怪しい人との接触を避けるために は仕方のないことである。
ウ 違和感を察知するセンサーが働く機会が減り、人間洞察力が 失われるので、よいこととは思えない。

エ 一生無菌状態のまま生きていける可能性があるのであれば、 選択肢の一つではある。

問三 線②「人間関係にタフになる」とは、どうなることか。二 十五字以内で書け。

Grid for writing answer to Question 3.

界にいろいろ触れて免疫をつけ、人間関係にタフになることも成長に おいて大切なプロセスです。

③ A 「キャンプに参加して、いつもとは違う人たちと濃く触れ合つて 過ごすと、子どもはびつくりするほど成長して帰ってきます。」

B 環境、C 言語空間、D 考え方といったものが、感覚 に揺さぶりをかけ、人間関係の免疫を高めてくれるのです。同種、同 類の人と過ごすだけでは、そういう新鮮な感覚には出合えません。

意外とおもしろいのが、お父さんの友だちを家に連れてくること。30 子どもにはすごく刺激になるようです。大人の女性とは、「〇ちゃん のお母さん」というかたちで接することがけっこうありますが、大人の 男性——おじさんは、子どもの周りにはあまりいないので、その存 在感、異物感が強烈なのです。

E 「耳慣れない方言を使って話す親戚のおじさん、おばさんの35 存在も、新鮮な刺激をもたらします。

世の中にはいろいろな人がいます。違う人種、違う言語、違う文化、 違う考え方をしている人がいるのは当たり前で、多様な人々が混在してい るのが社会というものです。異質な人との出会いが、人間としての幅 を広げる。その積み重ねが、違いを認めて、違いを受けとめる姿勢を40 培います。

自分と違う価値観をもつ人を受け入れられず、極端になると「許せ ない」という歪んだ感覚で他者をコウゲキしたり排除したりしようと することは、非常に狭量で、危険です。

いろいろな人を寛容に受けとめられる——子どもたちにはそうあつ45

問四 A・Eにあてはまる言葉として最も適当なものを次から 選び、それぞれ記号で答えよ。

- ア ところが イ だから
ウ なぜなら エ また
オ たとえば カ ところで

問五 B〜Dに共通してあてはまる言葉を文中から三字で書き 抜け。

Blank box for writing answer to Question 5.

問六 線③「お父さんの友だちを家に連れてくること」を筆者が 「おもしろい」と評価しているのはなぜか。

問七 この文章で述べられている内容と合っていないものを次から一 つ選び、記号で答えよ。

ア 最近子どもたちを取り巻く世界がますます同質化しており、 特によその大人と接触する機会が減っている。

イ 人は一生無菌状態のまま生きていけるわけではなく、社会に 出れば否応なしに人間関係の免疫が高まっていく。

ウ 世の中にはいろいろな人がいるものであり、多様な人々と出会 うことが人間としての幅を広げることにつながる。

エ 自分と違う価値観をもつ人を受け入れられず、そのような人 を排除しようとする姿勢は非常に危険である。

2

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。
やたら傲慢な人、人の言葉に傷ついたとき烈火のごとく怒り出す人は、本人は自覚していませんが、劣等コンプレックスを抱えているのです。

劣等感というのは、だれもがもつものです。自分は学校で成績が悪かったし、頭の切れ味がちよつと鈍いようだ。自分はかなり太り気味で、もう少し痩せないとかつこ悪い。自分は運動神経が鈍くて、足は遅いし、球技は苦手で、体育の時間が苦痛で仕方がなかった。何が劣るかは人それぞれですが、だれもが何らかの劣等性をもつものであり、そのことを自覚しているものです。

劣等感はだれもがもつものだし、もつことは問題ないのですが、自分の劣等性から目を背けようとするとき、そこに劣等コンプレックスが形成されます。

個人心理学の提唱者アドラーは、劣等コンプレックスに苛まれていてる人に対して、「あなたは劣等感を感じていますか」と尋ねると、けつして自分が感じていることを認めることはなく、むしろ自分が周囲の人たちよりいかに優れているかを答えるはずだと言います。でも、その人を観察すれば、劣等コンプレックスを抱えていることがすぐわかるかると言うのです。

たとえば、傲慢な人は、自分が有能さを発揮できないことによる劣等コンプレックスをもっているため、人から見下されるかもしれない、だから自分を大きく見せなければならぬということ、偉そうな態度を取るようになります。

自分の劣等性を素直に認めていけば、傲慢な態度でそれを隠そうとするよりも、少しでも有能になるために自分磨きをするという建設的な行動を取ることができます。どうも仕事で有能さを発揮するのは難

激されそうな場面になったら、カットししやすい自分を意識するようにしましょう。

もうひとつ大切なのは、自分の短所を認め、笑い飛ばせるようにしておくことです。頭の切れ味の鈍さも、太っていることも、運動神経55が鈍いことも、それを受け入れ、だからといって自分が人間として劣っているわけではない、人間として価値が低いわけではないと開き直ることができれば、劣等コンプレックスのような厄介なものをもたずにおすすめです。

(中略)

「私、運動神経ゼロだから、大きなラケットでも派手に空振りばかり。当たらない方が難しいよって言われるくらいなんだから、イヤになっちゃう」

こんなふうに自分で自分を笑い飛ばせれば、人にかかわれても、たとえきついことを言われても、腹を立てたりせずに一緒に笑うことができます。

(榎本博明「イラツとくる」の構造)

*スレンダー＝すらつとした細身の体型。

問一 「劣等コンプレックス」について、次の(1)・(2)に答えよ。

(1) 「劣等コンプレックス」はどんな心理から形成されるのか。

最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア 自分の劣等性を直視したくないという心理。
- イ 自分の劣等性を人から指摘されたくないという心理。
- ウ 自分に劣っている部分があるとは到底思えないという心理。
- エ 優秀な人間として評価されたいという心理。

(2) 「劣等感」と「劣等コンプレックス」の違いを、五十字以内で

しいなと感じれば、人の良さを売り物にして、周囲の人たちとの人間関係を良くするという方向で自分の価値を高めていくといった建設的な考えをもつこともできるでしょう。

(中略)劣等コンプレックスを抱えていると、何かにつけてイラツときたり、カットしたりしやすくなります。

たとえば、頭の切れ味の鈍さが劣等コンプレックスになっていると、「お前、そんなこともわからなかったのかよ」

と、友だちがなんの悪意もなく言った言葉にコンプレックスを刺激され、バカにされたと感じて、烈火のごとく怒り出したり、いじけた態度になつて相手に嫌味を言ったりしてしまいます。

太っていることが劣等コンプレックスになっていると、服装や体型の話になると嫌な気持ちになるため、その手の話題は避けるようになります。また、友だちがスレンダーな人をカッコイイと賞賛すると、まるで自分がバカにされたかのように攻撃的になり、そのスレンダーな人をこき下ろすような嫌味を言ったりします。

運動神経の鈍さが劣等コンプレックスになっていると、スポーツの話題はできるだけ避けようとしたり、スポーツやスポーツ選手をバカにするような発言をしたりします。たまたまテニスをする事になり、全然うまくできないのを友だちにからかわれると、顔を真っ赤にして怒り出し、その場を去つたりしてしまいます。

そこで大切なのは、自分の劣等コンプレックスを知っておくことです。劣等コンプレックスは、無意識のうちに生まれるものであるため、自分では気づいていないものです。ゆえに、これまでの自分を振り返って、どんな言葉や態度にカットしやすいかをチェックすることで見当をつけることができます。カットする自分を意識できれば、自分を客観視でき、怒り感情が鎮まります。自分の劣等コンプレックスが刺

説明せよ。

問二 線①「大切なのは、自分の劣等コンプレックスを知っておくことです」とあるが、それはなぜか。

問三 線②「自分の短所を認め」るためにはどうすることがよい

と筆者は言っているか。それが書かれている部分を文中から四十字以上四十五字以内で探し、その初めと終わりの五字を書き抜け。

問四 劣等感を克服するためには、どんなことが大切か。文中に述べられている筆者の考えを踏まえて書け。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。
*1 複眼的に考えていく力を身につけるにはどうすればよいか。そのための方法として、ここでは思考力を鍛える読書の方法について説明しよう。

あなたは本を読むとき、著者とどんな関係にありますか。「そんなこと、考えたこともない」という人もいるかもしれませんが。著者が好きか嫌いかで判断しているとか、尊敬に値するかどうかとか、著者との関係の持ち方はいろいろでしょう。しかし、ここで考える力をつけるための読書法を実践するためには、なによりもまず、著者と対等な関係に立つことが大切なスタートラインとなります。

(中略)

読者が著者に向かうとき、たいていはこうしたプロセスを見ずに、出来上がった「完成品」のみを見ています。ともかく、書店で売っている本のだから、そこに書いてあることは「すでに書かれた動かないもの」として、読者の目に映るのです。

(中略)どんな本でも、書いている過程には、さまざまな試行錯誤が含まれます。つまり、活字になった文章といえども、そこにいたるまでには、いろいろほかの文章になる可能性を切り捨てて、いまあるかたちを選び取った結果、その文章になっているのです。

よほどの天才的文章家でもないかぎり、文章を書くという行為には、必ずこうした考えながらの試行錯誤が含まれます。そして、いろいろな条件から判断して、「これでよし」と思ったものが、活字になる——それがあなたが手に取る本の文章なのです。

こうして、書くプロセスに含まれている迷いや選択ということ念頭においておくと、別の人が書いたものを読むときでも、すでに出来上がった動かない完成品であるとして見る見方から少しは逃れること

10

ができます。ほかの可能性の中でそれぞれのことばや表現が選ばれていった末に、目の前の活字になっている。そうやって本を読むと、読んでいく一つひとつのことが、まるであなた自身がそこで書いているかのように思えるかも知れません。

著者と同じ立場に立つということは、そうした選択の過程を、読み手の側から確認していくことなのです。

このように活字として書かれたものをとらえ直すと、本の著者の「つきあい」も変わってきます。漫然と著者のいうままに、その通りに文章をなぞるように読むのではない。「ほかの文章になる可能性があったもの」として目の前の活字を追っていく。つまり、「私だったらこう書いたかもしれない」とか、「どうして著者はここで、こんなことを書いているのか」を考えながら、文章を読んでいく。

どんなに偉い著者でも人間です。したがって、間違えることもあれば、気づかないうちに飛躍して文章を進めてしまうこともあります。根拠としたデータが不正確なこともある。いい加減さや、間違いや、論理不整合な部分の混入も含めて、さまざまな可能性のうちのひとつのかたちとして、目の前の活字があると考えたほうがよいのです。

このように活字メディアをとらえ直してみると、それを読むという行為の意味が違ってきます。ざっと読み流して、簡単に納得してしま

うのではない読書。つぎに何が書かれる可能性があったのかを、探りながら文字を追っていく読書。書き手がいきつもどりつしたように、読み手も自分の理解のペースで情報を獲得していく読書。活字メディアを相手にすることで、ほかのメディア相手ではできない、「行間」に目をむけることや、論の進め方をじっくりとらえることも可能になる

のです。
書き手の書くプロセスを意識するようになると、書き上がったもの

50

を「動かざる完成品」だと見る見方は弱くなっていくでしょう。つまり、完成品としてむやみにありがたがって本を読んだり、書き手の言いつ分をそのまま何となく納得してしまったりという[]の姿勢ではなく、本に接することができるようになるのです。

55

(荻谷剛彦「知的複眼思考法」)

*1 複眼的に考えていく＝複数の視点で考えていくこと。
*2 こうしたプロセス＝プロセスは過程。本文より前の部分で、書いたものが活字になるまでの過程を、削る、加筆するなどの修正を行いながら見せている。

問一 線①「動かないもの」とあるが、ここでの意味として最も

- ア 貴重なもの。 イ 理想的なもの。
- ウ 完璧なもの。 エ 不変的なもの。

問二 線②「さまざまな可能性のうち……ほうがよい」というのはなぜか。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

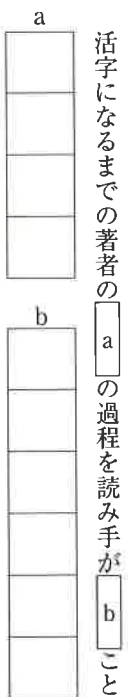
- ア 本の中には読む価値のない本もあるから。
- イ 著者の考えが変わる可能性もあるから。
- ウ 手にした本は完全なものではないから。
- エ 筆者の主張が正しいものではないから。

問三 []にあてはまる言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 卑屈 イ 受け身
ウ 守り エ 思い込み

問四 筆者は、活字メディアの長所はどこなところにあると考えているか。

(1) 「著者と対等な関係に立つ」って読むとは、どういうことか。次の文の[] a・bにあてはまる言葉を、aは四字、bは六字で、文中からそれぞれ書き抜け。



(2) 筆者が、「著者と対等の関係に立つこと」を大切だという理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア 著者の考えを鵜呑みにすることがなくなり、考えながら読む習慣が付き、思考力が鍛えられるから。
- イ 活字になるまでの著者の苦労を理解することができ、著者に親近感を感じるから。
- ウ 著名な著者の本をありがたがることなく、逆に物事を疑ってかかるといふ習慣が身につくから。
- エ 文章を書く基本を学ぶことができ、自分が文章を書くときに役に立つから。



21



文学的文章 1

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

*1 ある句会で、部屋の脱臭や化粧品に使われている「炭」も季語ですかという質問が出ました。「うツツ」という思いが強く、即座に違いましたと言えませんでした。質問をした年配の方は、席題に「炭」が出たので、改めて身辺を見回すと、炭はことごとく本来の目的とは違う用途のものとなっている、さてこの「炭」は冬の季語の炭と同じでいいのかわかると疑問を抱いたということでした。

季節にかかわってこそ季語だ、という私の考えからすると、これは季語とは別の言葉となります。ところが、「炭」という言葉が冬の季語として歳時記にあるかぎり、これはどう用いても季語でいいのではなにかという意見が出ました。以前、「緑立つ」の傍題に「緑」があるの10で「緑」は季語だと心得て、「信号の緑」と詠んで句を作った方がありましたが、それと同じです。やはり季節にかかわってこそ季語なんだ、季語の基本はそこにあるのだということをお話してその句会が終わったのですが、これは侮れない問題だといささか気重に思いつつ、にわかには「炭」への郷愁がつのってきたのです。

たしかに、冬の生活物資として不可欠だった炭も、三、四十年前あたりからガスや電気に押され、暖房のために用いられるということが少なくなりました。使ったことのない人に「炭」という用語の説明をすることも、現物を示すこともできませんが、炭の背後にある時空や感情を説明することは、まず不可能です。

*5 埋火の夢やはかなき事はかり
子規のこの句にしても、用語の説明をしただけでは本当のところは

伝わらないように思われます。

太古の昔から、火のまわりにはいつも人がいました。火を軸にして集う人。埋火、火消壺、消炭。そんな卑近な物一つ一つが、どれも冬の暮らしの必需品だったのです。季語になる「炭」とは、そんな思いにつらなる炭であり、そんな思いをはらんだ炭なのでしょう。

今、その炭が暖をとる目的とは違う目的で流通し始めています。句会での話題にあがっていたように、脱臭剤として屋内に置くもの、風呂に入れてカルキ臭などを消すもの、炊飯器に入れるもの、石けんや化粧品に用いるもの、楽器として使うものなど、炭を使った商品のみを扱うしゃれた店までが登場するようになりました。

それはそれでいいことだと思えます。時代や文化の思潮や形態が変化していくように、ものの在りようも変わっていくのも自然のなりゆきでしょう。ただ、それは季語の「炭」とは違うということを、どこからどう言えはいいのかわか、やさしいようでも厄介かつ重大な問題だと思えるのです。

- *1 句会 || 俳句の会。
- *2 席題 || 句会で出される題。
- *3 歳時記 || 季語を分類・解説した本。
- *4 傍題 || 席題に関連した二次的な題。
- *5 埋火 || 灰に埋めた炭火。
- *6 火消壺 || 燃え残った炭を入れ、密閉して消すための壺。
- *7 消炭 || 火のついた炭を途中で消してできたもの。
- *8 卑近 || 身近でありふれていること。

問一 —— 線① 「『うツツ?』という思いが強く、即座に違いますが言えませんでした」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア ものの在りようが昔とは異なる現代において季語としての「炭」を説明するということの難しさを感じたから。
- イ 炭の本来の目的を知らない世代の人たちに「炭」が季語となつていて理由を説明するのは不可能だと思ったから。
- ウ 単純な質問ではあるが、真剣にたずねているので、即座に否定してしまつては気の毒なような気がしたから。
- エ 季語に対する自分の考えを押しつけることで、質問者の自由な発想の芽をつんでしまうことをおそれたから。

問二 —— 線② 「炭はことごとく本来の目的とは違う用途のものとなっている」とあるが、炭の「本来の目的」とは何か。

問三 —— 線③ 「信号の緑」の「緑」を筆者が季語とは別の言葉と考えているのはなぜか。文中の言葉を使って二十字以内で書け。

問四 —— 線④ 「押され」とほぼ同じ意味で「押す」が使われている文を次から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 観光地を巡り、行く先々で記念のスタンプを押した。
- イ 宿題を忘れないように、別れぎわに念を押した。

問五 —— 線⑤ 「子規のこの句にしても、用語の説明をしただけでは本当のところは伝わらない」とあるが、筆者がこのように考えるのはなぜか。

ウ 昨日のサッカーの試合は、終始彼のチームが押していた。エ 彼は熱を押ししてコーラス大会に出場した。

問六 —— 線⑥ 「冬の暮らしの必需品だった」とほぼ同じ内容を表している部分を文中から書き抜け。

問七 —— 線⑦ 「それはそれでいいことだ」に込められた筆者の思いはどのようなものか。「それ」の内容を明らかにしたうえで、五十字以内で書け。



21



文学的文章 1

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

*1 ある句会で、部屋の脱臭や化粧品に使われている「炭」も季語ですかという質問が出ました。「うツツ」という思いが強く、即座に違いましたと言えませんでした。質問をした年配の方は、席題に「炭」が出たので、改めて身辺を見回すと、炭はことごとく本来の目的とは違う用途のものとなっている、さてこの「炭」は冬の季語の炭と同じでいいのかわかると疑問を抱いたということでした。

季節にかかわってこそ季語だ、という私の考えからすると、これは季語とは別の言葉となります。ところが、「炭」という言葉が冬の季語として歳時記にあるかぎり、これはどう用いても季語でいいのではなにかという意見が出ました。以前、「緑立つ」の傍題に「緑」があるの10で「緑」は季語だと心得て、「信号の緑」と詠んで句を作った方がありましたが、それと同じです。やはり季節にかかわってこそ季語なんだ、季語の基本はそこにあるのだということをお話してその句会が終わったのですが、これは侮れない問題だといささか気重に思いつつ、にわかには「炭」への郷愁がつのってきたのです。

たしかに、冬の生活物資として不可欠だった炭も、三、四十年前あたりからガスや電気に押され、暖房のために用いられるということが少なくなりました。使ったことのない人に「炭」という用語の説明をすることも、現物を示すこともできませんが、炭の背後にある時空や感情を説明することは、まず不可能です。

*5 埋火の夢やはかなき事はかり
子規のこの句にしても、用語の説明をしただけでは本当のところは

伝わらないように思われます。

太古の昔から、火のまわりにはいつも人がいました。火を軸にして集う人。埋火、火消壺、消炭。そんな卑近な物一つ一つが、どれも冬の暮らしの必需品だったのです。季語になる「炭」とは、そんな思いにつらなる炭であり、そんな思いをはらんだ炭なのでしょう。

今、その炭が暖をとる目的とは違う目的で流通し始めています。句会での話題にあがっていたように、脱臭剤として屋内に置くもの、風呂に入れてカルキ臭などを消すもの、炊飯器に入れるもの、石けんや化粧品に用いるもの、楽器として使うものなど、炭を使った商品のみを扱うしゃれた店までが登場するようになりました。

それはそれでいいことだと思えます。時代や文化の思潮や形態が変化していくように、ものの在りようも変わっていくのも自然のなりゆきでしょう。ただ、それは季語の「炭」とは違うということを、どこからどう言えはいいのかわか、やさしいようでも厄介かつ重大な問題だと思えるのです。

- *1 句会 || 俳句の会。
- *2 席題 || 句会で出される題。
- *3 歳時記 || 季語を分類・解説した本。
- *4 傍題 || 席題に関連した二次的な題。
- *5 埋火 || 灰に埋めた炭火。
- *6 火消壺 || 燃え残った炭を入れ、密閉して消すための壺。
- *7 消炭 || 火のついた炭を途中で消してできたもの。
- *8 卑近 || 身近でありふれていること。

問五 —— 線⑤ 「子規のこの句にしても、用語の説明をしただけでは本当のところは伝わらない」とあるが、筆者がこのように考えるのはなぜか。

ウ 昨日のサッカーの試合は、終始彼のチームが押していた。エ 彼は熱を押ししてコーラス大会に出場した。

問六 —— 線⑥ 「冬の暮らしの必需品だった」とほぼ同じ内容を表している部分を文中から書き抜け。

問七 —— 線⑦ 「それはそれでいいことだ」に込められた筆者の思いはどのようなものか。「それ」の内容を明らかにしたうえで、五十字以内で書け。

2

① 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。
子どもの頃なじんだおまじないというのは、今でもなかなか力を持
っている。そんな中に、親のない子は鳥居をくぐってはいけないとい
うのがあった。これはどんな意味があるか今でもよくわからないのだ
けれども、親をなくしていた私は、いつも守って鳥居の外側を遠慮が
ちにまわって通った。今ではそんなことはもうしない。でも下を通る5
たびになにか落ち着かない気分になる。

お葬式そうしきの車にであつたら、親指を中にして手をにぎるというのもあ
った。そうしないと不幸がうつってくる。そして今度はあなたの親の
番になるかもしれないよという意味らしい。親が父親一人になってし
まっていた私は、その父まで連れ去られたら大変と、必死で手をにぎ
りしめたのを憶おぼえている。これは今でもごく自然にしよう。現在
九十二歳九十の父を、まだまだ失いたくない。元気でいてほしい。

ブラジルにいたとき、災わざいを避けたいときは両手の人差し指を中指
と交差させ、なんでもいいから木のものにさわるといとおしえられ
た。飛行機の離着陸りきちゆくのとき、私は必ずこの指の形をして木のものを探
す。飛行機の中にはたいい木のものはないので、元は木だと思つて
木綿もめんのTシャツなどにさわったりする。このおまじないは、ヨーロッ
パ全域でも幸運をまねくといわれ広く伝えられている。両手の指を交
差させ、手をあげて「グッドラック」というポーズをしているのを旅
行中に目にしたことがしばしばあった。

「おまじないは何でできている？」と聞いてみると、「それは心配で
できている」とマーザーグース風な答えが浮かんできた。でもこれは
心配というよりもっと得体のしれないおびえというもののようと思
う。四歳のとき母に死なれた私は、いつもおびえを抱かかえてきたように
思う。空の上、どこかはるかな所にとつともない力があつて、それに25

問一 — 線①「子どもの頃なじんだおまじないというのは、今でも
なかなか力を持っている」とあるが、「親のない子は鳥居をくぐつ
てはいけない」というおまじないは、今の筆者にどう作用してい
るか。

問二 — 線②「今でもごく自然にしよう」とあるが、どうい
うことをしようのか。三十字以内で書け。

問三 — 線③「私をおまじないの忠実なしもべにした」ものとして
最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。
ア 自分にだけ悪いことがふりかかっていることへの恐れ。
イ はるかな所にあると感じていた大きな力に対するおびえ。
ウ 目に見える世界は信じることができないという諦あきらめ。
エ 自分を見守ってくれている不可思議な力に対しての信頼しんらい。

問四 — 線④「いいおまじないはきつと悪いことをさけてくれる」
と考える筆者にとって、「おまじない」はどんなものなのか。文
中から七字と八字で書き抜け。

は泣いてもわめいても抵抗ていこうできないのだということを、身にしみて感
じていた。目に見える世界の幸せはあまり頼たのりにならない、目に見え
ない世界の力のほうがずっと大きく人を動かすと思つていた。それで
よく空を疑い深くうかがつていた。あんなに青くきれいな空だけれど
も、本当にどこまでもどこまでも青くきれいなのだろうか。あの青の30
終おわりりになにか油断できないものが潜ひそんでいて、私めがけていつかきつ
と急降下でやつてくる。その恐れは、いつも私をおまじないの忠実な
しもべにした。悪いことが起きませんように。④ いいおまじないはきつ
と悪いことをさけてくれる。いいことと悪いこと、しあわせとふしあ
わせ、この二つはどこかで一つにつながっている。だからおまじない35
でいいほうに力のうごきを変えなくちゃ。それでああ、だれかさんお
願ねがいということになる。おまじないは人の願ねがいの結晶けつしょう、安心を招く呼
び声なのだ。

人はおまじないを唱えるとき、一瞬いつしんでもむこうの世界、見えない世
界に心をむけるのではないだろうか。⑤ それは、魔女といわれている人40
ととても近い所にあるように思う。魔女はドイツ語でヘクセといい、
垣根かきねの上にいる人という意味があるときいた。垣根の上において、ど
ちらにも属し、どちらにも属さない存在、そして、あつちの世界とこ
ちの世界を同時に見ている人、つなげている人といえる。境目にある
ということでは、きつとおまじないも一緒だと思つて。ふたつの世界に45
想像をひろげ豊かな実りをねがう、この境目こそすべてのものが生ま
れる所なのだ。また物語も生まれてくる所なのだと思っている。

(角野栄子「魔女のひきだし」)
*マーザーグース風「マーザーグース」「マザーグース」ともいうのはア
メリカやヨーロッパで親しまれているイギリスの伝承童謡せうやうの総称。
マーザーグース風とは、その歌詞にあるような、といった意味。

問五 — 線⑤「それは、魔女といわれている人ととても近い所にあ
るように思う」とあるが、筆者が「おまじない」と「魔女」が近
い所にあると思つ理由を三十五字以内で書け。

問六 この文章は筆者のどのような思いをつづつたものか。最も適当
なものを次から選び、記号で答えよ。
ア 子どもの頃になじんだおまじないに、大人になつても縛しばられ
てしまうことを恐ろしく感じる思い。
イ おまじないと魔女との間に共通点を見つけることができた喜
びを伝えたいという思い。
ウ いつもおびえを抱かかえていて、おまじないの忠実なしもべだつ
た子どもの頃をなつかしく感じる思い。
エ おまじないを唱えてむこうの世界に想像をひろげるとき、物
語も生まれてくるのだという思い。

3

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。
全国高等学校俳句選手権大会（五人一組の団体戦で俳句の得点と相手の句に対する鑑賞の得点で勝敗を決める）に出場している加藤東子は、準決勝の前に、国語教師の富士と話をしている。

「あの方たちは句会や選で、これぞという句を選びます。それは同時に、ほかの句を退けるということです。選とは、そういうことです。批評は第二の創作です。あの審査員たちは、他人の労作に優劣をつけるという修羅場を長年潜り抜けてきた人たちです。傷つけた分傷つけられる、その覚悟のある人たちです」

傷つけた分傷つけられる。
急所を突かれた思いで、東子は返事ができなくなった。

東子には傷つける覚悟がない。だって、どの句にだっていいところがあるもの。昨日聞いた負けた句にも、好きなものがたくさんあったもの。だから東子は句を否定できない。今年の五月、東亜女子学園の10句を褒めちぎって笑われた、あんな具合になってしまふ。

「それに、ずっと審査員の評を聞いてきてわかったと思います。批評とは否定ではありません。この大会、どうかするとそれを忘れがちになるかもしれませんね」

「え？ どういうことですか？」

富士は体をひねって東子を見た。

「たとえば、昨日うちが出場した決勝トーナメント第一回戦の、中堅戦を覚えていますか？ あの相手チームの句」

東子は記録ノートを引っ張り出す。

「ああ、これですか」

「すごく印象に残っている。まっすぐすぎて異色だった。」

夕焼雲でもほんたうに好きだった

「あまりにまっすぐで、みなさん攻めあぐんでいましたね。たしか争点点は、表記はこれでもいいのかということに終始しました。ですが、こういうっては何ですが、それは些末なことだったと思います。あの句はあのまま、どの言葉にも置き換えられない必然性を獲得できていたんじゃないでしょうか」

「でも、それじゃ、あの場でどう突っ込めばよかったんでしょう。何とも言えなくなっちゃいます」

「突っ込まずに、すなおに共感したと言ってもよかったですのではないですか？」

東子は返事ができなくなった。

「本当は、私は今でも俳句という形態が好きではありません。その理由の一つは、あのような、句歴の浅い高校生がひねりや工夫なしに掴み取った表現が、時として圧倒的な印象を残すことがあるからです」

「なんだか今、とても大切なことを言ってもらっている気がする。富士の言葉をこんなに真剣に聞いたことがあっただろうか」

東子の思いにかまわず、富士はいつものとおりに教師らしく続けていく。

「でも本当に好きだった」。これが小説や戯曲ならば、この一言が読者の共感を呼ぶようにと、作者はそこまでの人物造形やプロットに全精力を注ぎ込みます。でも俳句はそれをしない。にもかかわらずあの句が共感を呼んだとすれば、それは、受け取る側に、自分の都合なんなかお構いなく圧倒的に美しい夕焼けをうちのめされながら見つめた記憶や、「でも本当に好きだった」と吐露するしかなかったやせな身体験があるからです。そう、あの句、試合には勝ちましたが、だからと

問二 線②の俳句について、次の(1)・(2)に答えよ。

(1) この俳句の表現を東子はどのように受け止めているか。文中から十字以内で書き抜け。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

言って今日の閉会式で最優秀賞に輝くとは思いません。審査員の方々も、努力や研鑽が窺われる句を評価するでしょう。でも、あの句が披講された瞬間、客席で多くの人が体を動かしたのは事実です。ああ、そのとおりで、といい歳をした大人が多勢共感していました。そんな場面を見たのはあの句の披講の時だけでした。『でも本当に好きだった』と叫んでいたかつての自分が揺さぶられたのですね」

(森谷明子「春や春」)

*1プロットII小説や演劇などの筋・構想。

*2披講II詩歌などの会において、作品を読み上げること。

問一 線①「東子は返事ができなくなった」とあるが、それはなぜか。「傷つける覚悟」「傷つけられる覚悟」という言葉を使って

五十字以内で書け。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(2) この俳句に対する富士先生の評価はどのようなものか。文中の言葉を使って六十文字以内で書け。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問三 線③「東子は返事ができなくなった」とあるが、その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア 思ってもみなかった俳句の批評のあり方を知って驚いたから。
- イ 富士先生が俳句が好きではないことがショックだったから。
- ウ 富士先生の言っていることが全く理解できなかったから。
- エ 俳句を批評することの難しさを痛感させられたから。

問四 線④「あの句が披講された瞬間、客席で多くの人が体を動かした」とあるが、その理由を富士先生はどのように考えているか。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--